▲　今年は花芽が六つつきました　　（6月26日撮影・当山にて）

慧光

金光寺寺報
第２２９号
発行所　金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
５９２７番地
☎　０９８２
８３－２３３８

今月法語カレンダーのことば

人間は死を抱いて生まれ　死をかかえて成長する

今月は、大谷大学教授を務められた信國淳先生が述べられたなかの一文です。このなかで「死ぬべき身としてこそ生を始める」とあらわされておりますが、私たちは、この世に生を受けたときから死のカウントダウンが始まります。私たちはみな生老病死の苦しみから逃れることはできない、その現実を生きているのである、ということをお示しくださっているのではないでしょうか。

私たちが、自らの「生(老病)死」を見つめるきかっけは、他者の「生(老病)死」を通してです。たとえば、蓮如上人がご門弟に宛てて書かれたお手紙(『御文章』)のなかで無常観をおっしゃるようになったのは、妻子の死を契機としてです。いくつもの悲しみを体験されたことによって、自らの根本的な問題として「いのち」と向き合われたのではないでしょうか。さらに重要なのは、上人は無常であるとだけおっしゃってはいません。いのちのはかなさを述べるだけでは、「諦め」でしかありません。その後に、「後生の一大事を心にかけて、阿弥陀仏をふかくたのみまゐらせて、念仏申すべきものなり」とお示しくださっています。

私たちの「いのち」ははかないものですが、だからこそ、永遠のいのちとして浄土に生まれさせようとおはたらきになっている阿弥陀さまのお救いをいただくべきである、とされています。「いのち」の尊さを感じることができるのは、上人ご自身が阿弥陀さまのおはたらきにあずかることの大切さを感じられた、そのままのお心をお説きになっているからだと思います。

（本願寺出版社刊「大乗」誌掲載
『月々のことば』より抜粋　転載）

仏事お休みのお知らせ

下記の日は当山で高千穂組の法座を開きますので仏事はお受けできません。

◎　９　月
　　１１日　終日

５月、６月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

２０２０年　５月５日　満７８歳
長　峰　　霤　川　文　雄　様
２０２０年　６月１３日　満102歳
渡　瀬　　高　橋　キミ子　様

ホームページ開いています。
ＵＲＬ　https://konkouji.jp/
7月9日現在アクセス数　105.150人

金光寺のひと月

六　月

一　日　還暦同級生物故者追悼法要
三　日　白瀧タツエ様　一周忌
　　前坊守釋妙順　月忌
六　日　松永松義様　三回忌
七　日　石井榮子様　七回忌
　　石井　榮様　三十三回忌
　　石井アイ子様　三十三回忌
九　日　椎葉直行様　二・七日忌
十　日　高千穂組住職会（当山）
十三日　高橋キミ子様　臨終勤行
　　高橋キミ子様　通夜
十四日　高橋キミ子様　葬儀
　　高橋キミ子様　還骨・納骨
　　初・七日忌
十五日　高橋キミ子様
　　礼参り
　　寺報郵送
十六日　椎葉直行様　三・七日忌
　　宗祖親鸞聖人　月忌
十八日　前住職釋依章　月忌
十九日　霤川文雄様　葬儀・納骨
　　中陰法要
二十一日　森田ヨシエ様　二十五回忌
二十二日　宮崎教務所長来寺
　　金光寺寺族釋維章　祥月
二十三日　椎葉直行様　四・七日忌
　　寺報配布（十四区）
二十四日　宮崎別院責任役員・総代会
　　（本願寺宮崎別院）
　　第二回組長会（宮崎教務所）
二十六日　金光寺第十四世釋善静　祥月
二十七日　松本宇吉様　五十回忌
二十八日　松永鶴徳家　入仏法要
二十九日　藤本君子様　七回忌
三十日　椎葉直行様　五・七日忌

任職ひとりごと

今年は蓮の開花が早く参詣者の方々や私たち家族の目を愛でて楽しませます。昨年は二輪咲きましたが、今年は花芽が六つつんでいます。その内三輪が散りました。一輪は今がすでに散りました。残りの二輪はちょうど見頃です。ぜひ見ごろを迎えるでしょう。▼蓮の花を題材にして次の句があります。

散るときが浮かぶ時なり蓮の花

散った蓮の花びらが水面に浮かぶ。当山門徒の方々はこの句を見て、思いを出されたのでしょうか。▼正しい命終のえがき方は、水中に沈む（散った花びらが）水面に浮んでいるかのように、慈悲の助けを借りて、阿弥陀さまの救いにあずかる。そのことを表わしたこの句は、思いを出されたのでしょうか。▼正しい命終のえがき方は、水中に沈む（散った花びらが）水面に浮んでいるかのように、慈悲の助けを借りて、阿弥陀さまの救いにあずかる。そのことを表わしたこの句は、思いを出されたのでしょうか。

館にかぶった蓮の花びらが水面に浮
もいさを見るたびに山門徒の句
こ出まするたびに山門徒の句
の匂ま。当山門徒の句
味の色紙があり
わ、紙があり
い散でまま
散っはなり
ぶ花はなり
さ苦はなり
ま阿し、
っ弥陀花
む水のいま
沈のえ
（散がま
（散がま
（散がま